

# 自然意識について

塚本珪一（日本余暇文化振興会）

## 自然意識 体験 知識

### I. 目的

自然＝野生の中に入っていこうとする人々が、どのような意識（自然観）と体験を持っているかについて知ることは必要であり、大切なことであると考え。特に自然の中での活動において指導者と参加者との間の自然の意識の理解についての認識は必要なことである。自然についての意識というものは、その人の成育歴や学歴、職業歴、行動範囲などでそれぞれ違って来る。ここで言う行動範囲とは、その人が過去にどのような自然の中に入る機会があったかということである。自然についての意識、知識、体験、などは年齢、性別、グループなどなどによっても違ったものがあるだろうし、体験の積み重ね、学習などによって変化するだろう。

演者は4種の内容を持つアンケートを592名にお願いし、その結果を分析考察した。その結果について報告する。

### II. 調査方法

アンケートの内容は次の4種別から作られ、全体で34の質問と、別に2種の質問があるが、今回は4種別の質問のみについて報告する。

(1) 積極的な自然の中での活動の有無 (2) 身近な自然に対する関心の有無 (3) 自然に対する少し高度な知識の有無 (4) 体力を必要とする活動の有無。

別に 1. 今までにあなたが出会ったすばらしい自然は 2. あなたの理想とする自然は について数行書いてもらった。

34の質問に対する回答率と4種別の質問に対する回答率によって分析した。

調査対象は計画的なプログラムを持って野外での活動をしている中学生、自然活動の単位取得をきぼうしている学生、野外活動の指導者を希望している社会人、野外活動施設でのボランティア、社会人山岳会に所属するものなどである。

### III. 調査結果

#### 1. 全般的な傾向

全般的な傾向としては、価の高いものは、積極的に自然の中へ、身近な自然への関心、体力的活動、知識の順となる。自然の中への意志を持つもの、身近な自然への関心が共にほぼ60%に近い価を示している。

4種別の質問間には相関関係はまず認められなかった。ただ、全般的に価が高いものは身近な自然への関心が高いか、知識が高いようである。

#### 2. 男女別、年齢別傾向

全般的に男子の価が女子よりも高いことが言える。女子の場合にも20才までと20才以上

の比較において、は後者の価が高く、各種別の価の順位も変わってくる。20才までは積極的な意識が高く、次に身近な自然への思考、体力的、知識の順となる。20才以上では身近かな自然への関心、知識、体力的なものの順となる。

男性の場合は20才までは体力的なもの、積極的な思考、身近な自然への関心、知識の順となる。20才以上では身近な自然への意識と体力的なものがほぼ同じ価となり、積極的な意識、知識への順となる。男性の場合女子よりも体力的な意識の価の伸びが大きい。

## 2. グループ分け

算出された価からグラフを作成し比較すると、いくつかのグループに分けることができる。

Aグループ：全体的に価が高く、4種別の価にあまり大きな差がないもの。身近な自然への関心が高いもの。

Bグループ：全体的に低い価で、知識の価が低いもの。

Cグループ：全体的に高く、特に積極的な面と身近な自然への関心が高いもの。

Dグループ：自然への関心は高いが、体力的な価が低いもの。

## 5. 発達度

3年間の野外での活動のプログラムを立て計画的にやっている中学生3学年を対象に調査した。1-2年時では顕著な変化は認められないが、3年になると価は増加している。積極的な面も、知識面、体力的なものも3年になって高くなる。身近な自然への関心については余り変化がない。

## IV. 結語

男女差は明白で、特に自然の中で必要な知識、体力に差があると考えられる。この点では女子の高齢者の指導について留意しなければならない問題点が推測できよう。中学生では1-2年はほとんど変化が認められないこと、体力的な意識は3年生になって高まる。

一般社会人山岳会に所属する男性は、自然の中での生活と自然への対応のあり方が完成しているといえよう。このことは登山行為が自然の中でのあらゆる学習に適したものであると考えられる。

野外活動のセンターなどに所属する者は自然活動に対する積極性、身近な自然への関心は高い。さらに高度な自然の中での知識を高める努力があってもいい。

全般的にいえることは、身近な自然への関心が野外での意識を高めるものであると言えるであろう。

中学から高校にかけては基礎体力を付けることであり、大学では自然についての理論と体験学習の完成を目指したいものである。